

9 速読

「源氏物語」

名前 年 組 番

字数 402 字
目安時間 6 分

正答数 2

検印

◆ 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今日もこの葎せしとみの前渡しし給ふ。来し方も過ぎ給ひけんわた辺りなれど、ただはかなき一節ひとふしに御心とまりて、
通り過ぎ 出米事ひとふし二つ

いかなる人の住み処かならんとは、往ゆき来に御目とまり給ひけり。

惟光これみつ、日ごろありて参れり。「わづらひ侍る人はべ、なほ弱げに侍れば、とかく見給へ扱はひてなむ」など聞
 何日か 看病に手がかつておりまして

こえて、近く参り寄りて聞こゆ。「仰せられし後なん、隣のこと知りて侍る者呼びて、問はせ侍りしかど、
 はかばかしくも申し侍らず。いと忍びて、五月さつきの頃ほひより物し給ふ人なんあるべけれど、その人とは、
来ていらつしやる

さらに家の内の人にだに知らせず、となん申す。時々中垣なかかいの垣間見し侍るに、げに若き女どもの透影すきかげ見
 え侍り。褶しびらだつもの託言かごとばかりひきかけて、かしづく人侍るなめり。昨日、夕日の名残なくさし入りて
褶のような (部屋中) いっぱい

侍りしに、文書くとてゐて侍りし人の顔こそ、いとよく侍りしか。もの思へるけはひして、ある人々も、
 忍びてうち泣く様などなむ、しるく見え侍る」と聞こゆ。君うち笑み給ひて、知らばや、と思ほしたり。
 お思いになった。

語注

* 葎：日光や雨風をよけるための戸。

* 垣間見：何かの透き間からこっそりとのぞき見ること。

* 託言：言い訳や口実。

* 君：光源氏。

* 中垣：隣の家との境にある垣根。

* 褶：平安時代の女性の衣服の一種。

* ある人々：その場に居合わせた女房たち。

問1 傍線部①の解釈として最も適当なものを次から選べ。

- ア 女の人の素性を私が知らないだけでなく、家の中の人も知らない
 イ 女の人がどのような身分の人なのかを家の人には知らせない
 ウ 女の人がどういう人だとは、その家の中の人にさえまったく教えない
 エ 女の人の素性を知り、今後どうしていけばよいかが家の人でもわからない

問2 傍線部②とあるが、光源氏はなぜ「知らばや」と思ったのか。その理由として最も適当なものを次から選べ。

- ア 惟光が手紙を美しく書く女性を紹介しようかと言ってきたから。
 イ 惟光から手紙を書いていた女性の顔が非常に美しかったと聞いたから。
 ウ 惟光に美しい女性を探すように命じ、発見したと連絡があったから。
 エ 惟光が偶然通りかかったときに見た女性の顔がこの上なく美しかったから。



9 復習 「源氏物語」

名前 年 組 番

正答数

12

検印

文法Q 傍線部①～⑤について、本文横の□を埋め、文法の説明を完成させよ。

省略Q 本文横の□に省略された語句を記せ。（本文中の語句で答えること。）

今日もこの蔀の前渡りし給ふ。来し方も過ぎ給ひけん^{わた}辺りなれど、ただはかなき一節に御心とまりて、
 主語 □ は
 いかなる人の住み処^かならんとは、往き来に御目とまり給ひけり。

惟光^{これみつ}、日ごろありて参れり。「わづらひ侍る人、なほ弱げに侍れば、とかく見給へ扱ひてなむ」など聞

こえて、近く参り寄りて聞こゆ。「仰せられし後なん、隣のこと知りて侍る者呼びて、問はせ侍りしかど、

① はかばかしくも申し侍らず。いと忍びて、五月の頃ほひより物し給ふ人なんあるべけれど、その人とは、
 主語 □ は

さらに家の内の人にだに知らせず、となん申す。時々中垣の垣間^{かいま}見し侍るに、げに若き女どもの透影^{すきかげ}見

え侍り。褶^{しびつ}だつもの託言^{かごと}ばかりひきかけて、かしづく人侍るなめり。昨日、夕日の名残なくさし入りて

侍りしに、文書くとてゐて侍りし人の顔こそ、いとよく侍りしか。もの思へるけはひして、ある人々も、

忍びてうち泣く様などなむ、しるく見え侍る」と聞こゆ。君うち笑み給ひて、知らばや、と思ほしたり。

単語Q 波線部⑦～⑩の本文中での意味を答えよ。（活用する

語は終止形の訳語でよい。）

☒ その他の覚えておきたい単語

聞こゆ…申し上げる。

文…①文章。②手紙。③書物。④漢籍。

⑦ (エ) (ウ) (イ) (ア)

□ □ □ □